

大地申第3号
2016年9月30日

東日本旅客鉄道株式会社大宮支社
支社長 阪本 未来子 殿

東日本旅客鉄道労働組合
大宮地方本部
執行委員長 森田勝美

京浜東北・根岸線の安全輸送を確保し、輸送品質・働きがいの向上を求める 検証申し入れ

大宮地本は、「京浜東北線・根岸線の乗務員基地再編成」施策について、安全・輸送品質の向上と、施策を担う組合員の健康と働きがいが向上できる施策の実現を目指し、大宮支社と議論を積み上げてきました。そして昨年、京浜東北線全ての乗務員基地が再編される過程において、本部一本社間においても議事録を締結し、労使で検証を行うことが確認されました。

施策実施以降も、職場は日々安全・安定輸送の確保に奮闘する中、施策の目的達成を目指し、検証運動を進めてきました。その中で浮き彫りになった課題として、特に異常時対応において、会社より示された施策のメリットと現実の乖離に苦闘を余儀なくされています。会社が示した「車両と乗務員の集中配置により異常時対応能力が向上する」「区所を縮小することにより輸送障害時の調整がスムーズになり効率的に行うことができる」という施策のメリットについて、現実には車両運用と乗務員運用に課題が浮き彫りになり、施策実施以前に比べダイヤ平復に時間を要するなど、今までにない事態が発生しています。

また、乗務員配置の変化に伴い行路を作成しているため異常時に対する適応性が低下しているだけでなく、交代乗務員が手配できず長時間乗務が発生し安全上の観点からも解決すべきと考えます。また、車両留置の変化に伴い車両清掃の限界も生じており、サービス上の課題も露呈しました。

職場では、施策の目的・メリットと現実問題に乖離があることが不安視されているだけでなく、手狭な詰所やワンフロア等による環境整備の改善を求める声もあげられています。

施策を担う組合員の健康・働きがいを確保し、京浜東北・根岸線の安全と輸送品質の向上の実現に向け、下記の通り申し入れを行いますので誠意ある回答を要請します。

記

【共通】

1. 「京浜東北・根岸線の乗務員基地再編成」施策の目的を再度明らかにすること。また、施策の目的・主旨の実現に対する現時点での大宮支社の見解と課題を示すこと。
2. 早期ダイヤ平復のため、議論経過に踏まえ、最も輸送量が多い赤羽～蒲田間の輸送力を確保し、A・B・C運用の平復を早めること。
3. 蒲田駅での乗務員交代の対応力強化のため、大田運輸区の体制を強化すること。
4. 低下している輸送品質を向上させるため、磯子駅での乗務員交代を大幅に削減すること。特に、大田運輸区・さいたま運転区・さいたま車掌区の乗務員については異常時も含め、磯子駅での交代は行わないこと。
5. 異常時の対応力を確保するため、行路途中での入出区を担当する行路を解消し、便乗を削減すること。
6. 磯子駅北行詰所にA T O S 端末とテレスピを設置すること。また、椅子を増配置すること。
7. 南浦和駅南行詰所の整備とトイレを増設すること。
8. ワンフロアにおける業務・食事スペース等を区切り、乗務に向けて十分に休憩できる環境を整備すること。

【運転士】

1. 蒲田発21時20分以降の北行列車の担当乗務員については、さいたま運転区と東十条駅構内留置担当の運転士とすること。

以 上